

一般財団法人日本エスペラント協会 2024年度事業計画

0 基本方針・重点課題

- 0.1 国際語エスペラントの普及発展をめざす本会は、3年余のコロナ禍という大きな試練を経て、従来の事業のあり方を大きく見直し、改革を進めてきた。本会の発展のために、今年もその改革を推し進め、従来の慣例にとらわれない新しい発想を取り入れ、会員の拡大も目指す。
- 0.2 エスペラント会館(1978年建設)の将来を考え「エスペラント会館検討委員会」が2021年に発足し、さまざまな視点からの調査、検討を行なった結果、次世代へ継承できるような会館の建て替えを目指す方向を決定した。本年はそのための「エスペラント会館基金」を立ち上げ、会員からの寄付を募り、新会館のあるべき姿をコスト面、機能面から引き続き検討していく。
- 0.3 会員間の交流、各部や各委員会が活性化するよう、オンライン・アプリなども積極活用し、協力者や部員を増やしていく。各部が横断的に協力し合い、会員増のための方策を考え、実行していく。
- 0.4 次世代にエスペラントの存在意義、価値、魅力を伝えていけるよう、SNSをさらに効果的に活用し広報活動に力を入れる。
- 0.5 複数の部が連携し、広報や国際交流、教育活動として、オンライン・イベント(講演会、セミナー等)を積極的に行う。
- 0.6 多言語・多文化共生時代において、少数言語をはじめ多様な言語の尊重が重要視される今、「橋渡し言語」としてのエスペラントの意義を再確認し、エスペラント界外の組織・個人との協働も視野に入れた活動を推し進める。

1 エスペラント普及事業(担当:普及推進部)

1.1 基本方針

- 1.1.1 国内外のエスペラント団体と連携し、エスペラントの存在意義、魅力を共有し、さらに広報し、エスペラントを普及する活動を行う。
- 1.1.2 当会会員との連携を強化し、エスペラント関係者やその他の個人、団体とも協働の輪を広げ運動の発展に図る。
- 1.1.3 各部との横断的な協力によって、エスペラント広報事業を活性化する。

1.2 エスペラント普及推進事業の計画

- 1.2.1 国内のエスペラント運動の現状を把握し活性化を図る。
 - a) 「2023年エスペラント運動年鑑」の情報を生かし、活用する。
 - b) 広域、地域、専門、学校関連など、各種エスペラント団体の、2024年の活動に関する情報を収集し、「2024年エスペラント運動年鑑」を発行し、各エスペラント団体およびエスペランティスト間の情報共有を促進する。
- 1.2.2 各種エスペラント団体と協働し、エスペラント団体の活性化に寄与する。

- a) 地方エスペラント連盟の大会などに理事・協議員が出席し、各地のエスペラント運動について意見交換を行うように努める。
- b) 「エスペラント運動年鑑」や「エスペラント会懇談会」の連絡網(メーリングリストなど)により、情報の共有、経験交流を図り、エスペラント団体間の情報共有を促進する。
- c) 韓国で開かれる第3回日韓共同開催エスペラント大会には、二国間で協働し、国内のエスペラントに積極的な参加を促す。

1.2.3 会員の拡大・定着に努め、青年層への働きかけを強化する。

- a) 引き続き会員の拡大、定着のための方策を検討し実行する(青年年齢の見直し、中高生会員の創設等の検討を含む)。
- b) 青年エスペラント企画支援金を活用して、青年層のエスペラント活動を支援する。
- c) 青年層にエスペラント活動の場を提供する団体にも青年エスペラント企画支援金の活用を促す。
- d) 青年エスペラント活動の活性化を支援する。

1.2.4 エスペラント運動に功績があった個人・団体に「小坂賞」を授与し、内外にその功績を広める。

1.3 エスペラント広報事業の計画

- 1.3.1 本会ウェブサイトにおいて、エスペラントに関する広範な情報を、一般向けにわかりやすく提供できるよう内容の充実を図る。
- 1.3.2 インターネットに関しては、本会ウェブサイト以外にもSNS、動画サイト等を活用し、より広い層への広報活動を行う。
- 1.3.3 外部向けのニュースリリース「エスペラントの今」の発行を随時行う。
- 1.3.4 新型コロナを経験した後の社会ではハイブリッド開催が増えており、実参加でも、リモートでも参加がしやすくなっている今、エスペラント界外の団体等との接触の機会を逃さず、先方行事や先方企画への参加参画により、交流・相互協力・協働を推進する(従前の多言語・多文化共生領域やそれ以外の領域についても)。
- 1.3.5 韓国で開催される第3回日韓共同開催エスペラント大会を機会とした広報活動を行う。
- 1.3.6 世界的な「エスペラントの日」(『第一書』の発表された7月26日)や、日本の「エスペラントの日」(6月12日)を機会とした広報活動を行う。
- 1.3.7 世界エスペラント協会(UEA)とも協力し、広報活動を行う。

2 エスペラントを用いた国際交流事業（担当：国際部）

2.1 基本方針

- 2.1.1 日本のエスペ란ティストが行うエスペラントによる国際交流事業を支援する。
- 2.1.2 外国のエスペ란ティストに日本国内のエスペラントによる国際交流事業への参加を促す。
- 2.1.3 エスペラントによる国際交流事業を、特に世界エスペラント協会(UEA)の日本における国別代表組織として推進する。UEAのアジア・オセアニア委員会(KAOEM)、日本のUEA委員、UEA-delegitoなどと協働する。

2.2 国際交流事業の計画

- 2.2.1 2025年に日本で開催される第11回アジア・オセアニア大会の準備体制を整え、内容の検討を進め、開催地・開催日時を決定する。
- 2.2.2 日本から世界への情報発信が積極的に行えるよう、体制を整える。
- 2.2.3 第3回日韓共同開催エスペラント大会で「アジア活動分科会」を開催する。アジアで活動する青年エスペ란ティストを同大会に招待する。
- 2.2.4 2024年に開催される国内外のエスペラントによる国際交流行事への参加・協力を呼びかける。特に青年層に「青年エスペランティスト国際行動支援金」制度を活用しての参加を呼びかける。
 - a) 第3回日韓共同開催エスペラント大会(韓国全羅北道全州市10月4~6日)の開催に協力し、参加・協力を呼びかける。
 - b) 第109回世界エスペラント大会(タンザニアのアリューシャ8月3日~10日)への参加・協力を呼びかける(旅行団の企画は実施しない)。UEA委員には委員会への出席を支援する。
 - c) 第42回東アジア青年エスペラントセミナー(韓国)、第80回国際青年大会(リトアニアのシュヴェントイ 8月18日~25日)、第57回国際エスペラント教師連盟大会(ブラジルのマセイオ 7月20日~27日)、その他、日本国内外やインターネットで開催されるエスペラントによる国際交流事業に協力し、参加を呼びかける。
- 2.2.5 日本のエスペ란ティストへの支援として、国際文通サービスを継続する。
- 2.2.6 KAOEMの機関紙Esperanto en Azio kaj Oceanio(不定期刊)の編集・印刷・発送の支援を行うと共に、UEAのアジア・オセアニア基金への寄付を呼びかける。

3 エスペラント研究教育事業（担当：研究教育部）

3.1 基本方針

- 3.1.1 教育部門は、オンライン会議システムを用いて、地域を問わずエスペラント学習者の語学力向上の支援に努める。
- 3.1.2 研究部門は、日本エスペラント大会の場に加え、それ以外でも研究成果発表の場を提供し、学際的・多面的視野からエスペラント研究の発展と増強を図る。

- 3.1.3 ハヶ岳エスペラント館については 感染症対策への配慮を怠らずに、本会の研修施設として活用する。

3.2 研究教育事業の計画

- 3.2.1 エスペラントのオンラインでの学習や学習支援を充実させていく。下記の2つのコンテンツを活用し、エスペラントに興味を持つ人や学習者が本会を活用できる場を作る。
 - a) ウェブ教材「ドリル式エスペラント入門」の活用を推進し、学習支援事業を継続する。
 - b) 引き続きオンラインセミナーを企画し、開催する。
- 3.2.2 学力検定試験は昨年度改定した新基準により、定期的実施する。また新基準では、会話試験のオンライン化により、遠隔地で協力者を得て試験が実施しやすくなっていることを関係者に知らせ、国内各地で試験が実施できるようにつとめる。
- 3.2.3 UEAの主催するKER試験(ヨーロッパ言語共通参照枠CEFR準拠のエスペラント試験)の実施に協力する。
- 3.2.4 日本エスペラント大会で研究発表会および文芸コンクールを実施する。
- 3.2.5 研究発表会は、日本エスペラント大会以外の機会にも、オンライン、対面、ないしハイブリッドの形式で行うことを検討する。
- 3.2.6 外部研究者によるエスペラントへの学問的関心の高まりをうけて、『エスペラント研究: JEt 紀要』の再刊および『JEt 公開シンポジウム』の2025年度以降の開催に向けての可能性を探る。

3.3 ハヶ岳エスペラント館における事業の計画

- 3.3.1 エスペラント漬け合宿(NEK)等の研修や一般公開行事を行う。
- 3.3.2 感染症対策を実施して、安心・安全な利用ができるようにする。
- 3.3.3 快適な宿泊研修活動ができるよう、設備更新・館の保全を図る。

4 エスペラント雑誌の刊行事業(担当: 編集部)

4.1 基本方針

- 4.1.1 雑誌『La Revuo Orienta / エスペラント』(RO誌)を下記の方針で発行し、エスペラントの普及発展に資する。
 - a) エスペラントを学ぶ人にとって学習のよりどころとなる。
 - b) エスペラントを使う人にとって実用の場を深め、広める。
 - c) エスペラントを広める人にとって情報源となり、運動の活力となる。
 - d) 読者のエスペラント経歴の深浅にかかわらず、魅力的な誌面構成になるよう努める。

4.2 雑誌刊行事業の計画

- 4.2.1 RO誌を下記のように刊行する。
 - a) 印刷版の雑誌を毎月発行する。ただし8・9月号は合併号とする。

- b) 電子版は、個人会員に本会ウェブサイト内の会員専用ページで提供する。
 - c) 視覚障害者向けには、印刷版を抜粋した音声データを発行する。また点字版の制作に協力する。
- 4.2.2 編集体制については下記の方針とする。
- a) 将来の電子化、ウェブ化中心の誌面に向けて、検討・試行を行う。
 - b) 具体的な内容について、毎月の編集会議で協議する。年に1回、拡大編集会議を開く。
- 4.2.3 各号は、ニュース記事・定例記事・特集記事など多様な内容とし、日本語文とエスペラント文の双方を掲載するよう編集する。特集記事は、本会とエスペラント界の動向を反映しつつ、編集会議で計画する。
- 4.2.4 他部門との連携により、一部の号は増ページした特集号として発行する。

5 図書等刊行・頒布事業（担当：出版部）

5.1 基本方針

- 5.1.1 エスペラントの学習、エスペラントに関する文化の発展、エスペラント普及に資する図書出版活動(電子出版を含む)を行う。
- 5.1.2 内外のエスペラント図書を仕入れて販売する。また国外で発行されたエスペラント雑誌購読を取り次ぐ。

5.2 図書刊行事業の計画

- 5.2.1 出版物として下記を検討する。またその他、具体的な出版物の案がある場合検討する。
 - a) 本会刊行図書の再版は電子出版を中心に検討する。
 - b) 教科書・教材の出版を検討する。
 - c) 日本エスペラント大会・RO誌との連動企画等によって、視野を広げるような出版を検討する。
 - d) 学力検定試験問題集の出版に協力する。
- 5.2.2 今後の出版物の準備、計画を行う。
 - a) 『日本語エスペラント辞典』(宮本正男編)の全面改訂作業を新日本語エスペラント辞典編集委員会のもと進めてゆく。刊行時期の明確化に努める。
 - b) エスペラントや関連文化に興味がある作家・識者・出版社などに向けたイベント及び交流会を主催し、エスペラントに関連する執筆・翻訳・企画を広くバックアップする姿勢を周知する。
- 5.2.3 本会以外でのエスペラントに関する電子的教材等の出版への支援の仕組みづくりを検討する。
- 5.2.4 出版在庫について出版30年後の処分を目安として管理と対処を随時行う。

5.3 図書頒布事業

- 5.3.1 エスペラント書籍の販売、取次ぎを行う。

- 5.3.2 読書会の推奨、ウェブを活用した宣伝や、「エスペラント読書相撲」などとの協力を通じて、エスペラント図書の拡販に努める。
- 5.3.3 「日本エスペラント協会在庫図書カタログ」の更新方法について検討する。
- 5.3.4 ネット販売などの新しい販売手段について可能性を検討する。
- 5.3.5 重複した寄贈本について、総務部と協力しながらできるだけ読みたい人に幅広く渡るような活動を継続する。

6 エスペラント大会主催事業（担当：大会組織部）

6.1 基本方針

- 6.1.1 日本エスペラント大会は、国際語エスペラントの実用及び活用、並びに学習、研究及び創作の発表の場であるとともに、エスペラントの存在を社会に知らせ、普及を進める催しでもある。同時に日本国内外のエスペランティスト同士が交流し、親交を深め、エスペラント界の文化を高める場でもある。本会はこのような意識を持つ本大会を、日本各地のエスペランティストとの協力を得ながら毎年開催することを目指す。
- 6.1.2 本大会の開催が、共同主催団体や協力団体の活性化と開催地域でのエスペラントの普及推進に寄与できるよう務める。
- 6.1.3 本大会の継続した開催を可能なものとするべく、経験の蓄積と共有を行う。

6.2 日本エスペラント大会主催事業の計画

- 6.2.1 第111回日本エスペラント大会を、第3回日韓共同開催エスペラント大会として、次の要領で開催する。
 - (1) 開催日：2024年10月4、5、6日（金・土・日）
 - (2) 会場：大韓民国・全州教育大学校（全羅北道全州市）
 - (3) 共同開催団体：韓国エスペラント協会
- 6.2.2 2025年の第112回日本エスペラント大会について、日本で開催予定のアジア・オセアニア大会との合同大会とすることを念頭に、開催地・開催方法を決定して準備を始める。
- 6.2.3 2026年以降の日本エスペラント大会の開催地・開催方法について検討を進める。
- 6.2.4 日本エスペラント大会の開催を持続可能なものとするために、新しい試みを取り入れた第110回大会の経験を活かし、開催地決定を含めた新たな準備・運営体制の構築を進める。

7 その他事業及び法人の管理（担当：総務部、財務部、ウェブ管理部）

7.1 基本方針

- 7.1.1 本会のエスペラント事業の核となる会員の活動を支援し、各事業部門とも連携して、事業が円滑に行われるよう支援する。
- 7.1.2 本会が保有する図書・視聴覚資料等の保存について、デジタル化を含めた方策の検討を継続する。
- 7.1.3 今後起こり得る様々な状況に備え、本会の管理・運営方法を改善する。特に、新任の役員等に対しては運営上のルールや方針を記したマニュアルを整備し、支援する。

7.2 総務部担当事業の計画

- 7.2.1 総務部の職務（庶務、会員管理、エスペラント会館管理活用、役員支援など）を事務局及び関連委員会（選挙管理委員会、小坂賞委員会）の協力を得て、着実に実行する。
- 7.2.2 事務局の課題には、財務部とともに事務局会議を定期的に関き対応する。
- 7.2.3 図書館整備事業のうち、データベース作成作業に取り組み、図書館の整理作業も継続して行う。
- 7.2.4 図書販売促進のため、行事を利用した機会その他、出版部との協力関係、ウェブの活用を強める。効率的な仕入、多様なニーズに応えられる販売方法も検討する。
- 7.2.5 エスペラント会館5階倉庫にある出版在庫（委託販売品も含む）については、出版部と協力して、在庫の適正化と、コンテンツの電子化を含めた維持・拡充を行う。
- 7.2.6 エスペラント会館検討委員会の提言を受け、可能な提言を実行し、エスペラント会館の未来像を明確化していく。エスペラント会館基金の寄付募集への働きかけを強める。
- 7.2.7 本会事業の継承のため、および役員や関係者による適切なアクセスができるよう電子情報保管庫を整備する。
- 7.2.8 緊急時対応ガイドラインについては、事務局員、理事、監事、協議員、評議員、顧問で共有する。データ類の安全な管理については引き続き対応策を協議していく。

7.3 財務部担当事項の計画

- 7.3.1 公益目的支出計画および長期予算計画と整合を取りつつ、中長期的な視野の下に堅実な収支運営に努める。

7.4 ウェブ管理部担当事項の計画

- 7.4.1 本会ウェブサイトが、本会事業の広報はもとより、広く利用者にエスペラントに関する有用な情報を提供できるよう、維持管理を行う。また、トップページデザインの見直し、点字ファイル保管庫の充実等、本会ウェブサイトの利便性向上につながる施策を行う。
- 7.4.2 本会のSNS(X、Facebook、Instagram、YouTube等)によるエスペラント広報活動を更に活性化するため、主に技術的な面で支援を行う。
- 7.4.3 会員ページ(本会会員がパスワード付でアクセスするページ)で、会員に有用な情報提供を行えるよう、維持管理を行う。また、本会に入会する魅力を増すため、会員向けの新コンテンツの導入をさらに検討する。
- 7.4.4 ウェブサイト運営作業の属人化を防ぎ、各部門担当者による共同運営を容易にするため、運営ガイドラインの策定と作業マニュアルの整備をさらに進める。
- 7.4.5 開設から3年が経過した広報ウェブサイト「Saluton!」について、普及推進部、研究教育部と協力して、全面的リニューアルを行う。
- 7.4.6 「ドリル式エスペラント入門」ウェブサイト(現在は個人所有のサーバーで運用)を本会のサーバーに移転し、技術面での運営を、正式にウェブ管理部が担当する。
- 7.4.7 将来のJEIウェブサイトリニューアルを視野に入れ、現ウェブサイトの機能や構成、利用者の動線などについて再検討を行い、掲載内容の整理と改善・拡充を進める。
- 7.4.8 その他、本会の情報システムを担う部門として、各部局や委員会等の活動に対して技術面での支援を行う。